

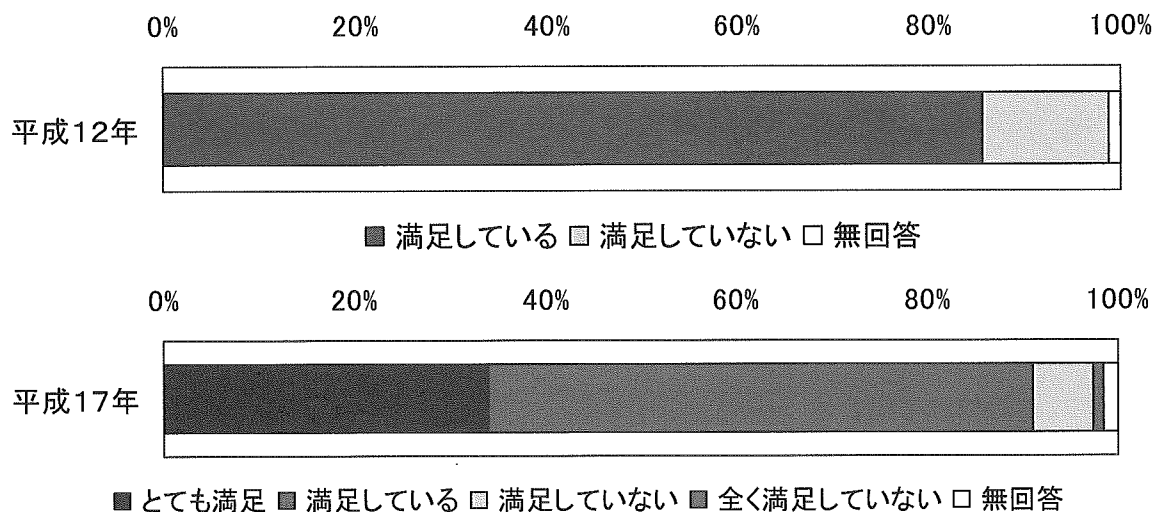
妊娠・出産についての状況はいかがでしたか。

- 1. とても満足している
- 2. 満足している
- 3. 満足していない
- 4. 全く満足していない

妊娠・出産
QOL指標

平成12年の調査が2択でであったものを4段階評価に変更したために、比較には留意が必要だが、改善していると言えよう。

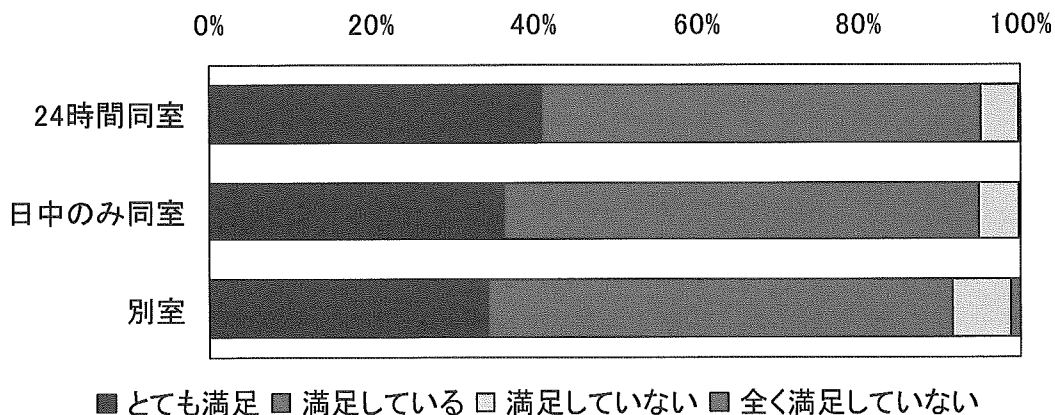
指標としては「とても満足」と答えた母親の割合をモニターすることが望ましい。



出産場所別の満足度の比較では、助産所で出産した母親で「とても満足」と答えた者が75.0%と最も多かった（病院36.6%，診療所40.0%）。

また、母児同室の状況別の妊娠・出産満足度では、24時間同室で最も高く、別室が最も低くなっていた。既に53.3%の母親が24時間同室と答えており、更に、母児同室化を進めることが望まれる。

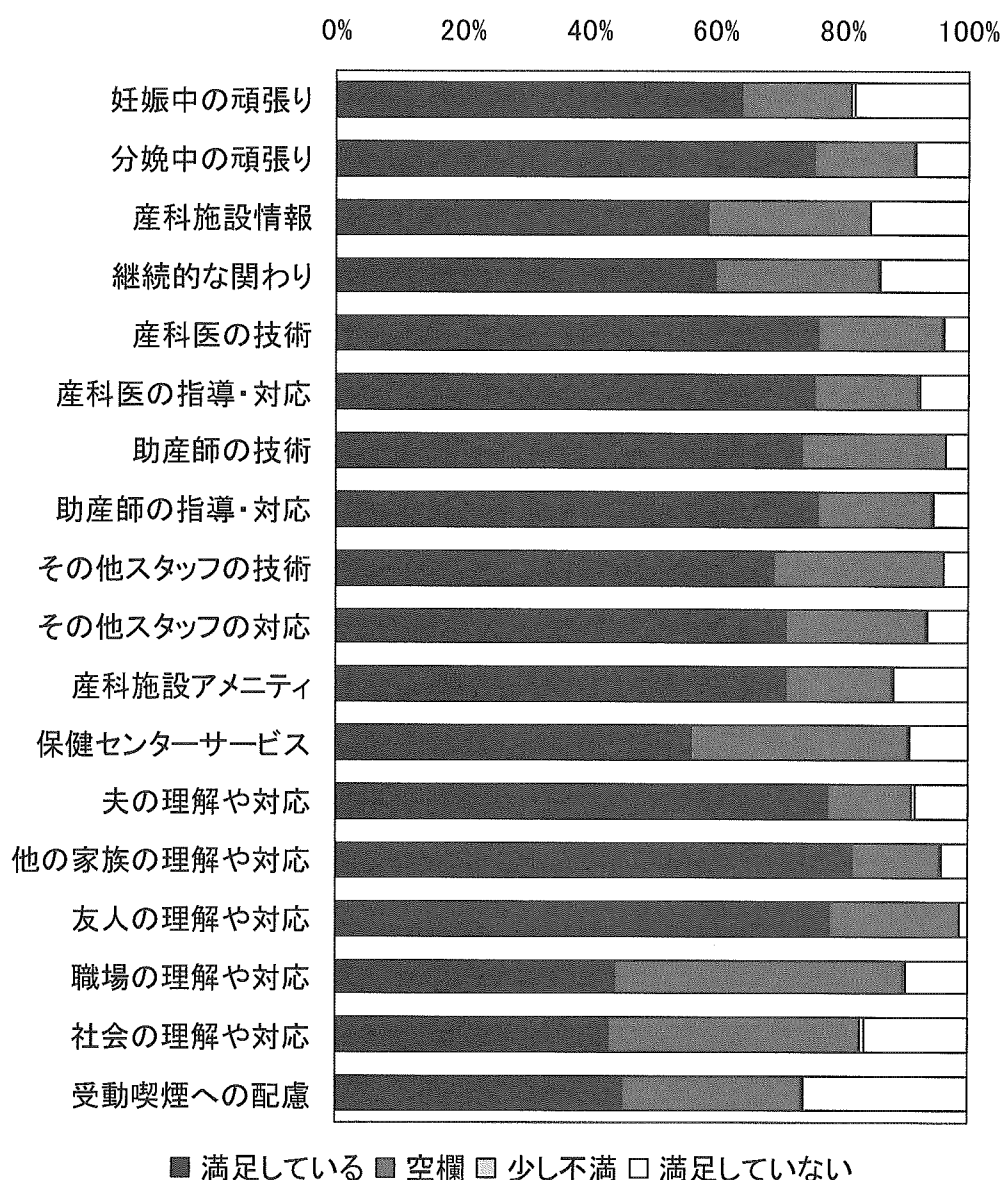
母児同室の状況と妊娠・出産満足度



項目別の満足度の評価では、「満足している」という回答が70%を超えていたのは「夫以外の家族の理解や対応」「友人の理解や対応」「夫の理解や対応」「助産師の指導・対応」「産科医の技術」「自分の分娩中の頑張り」「助産師の技術」「産科施設のアメニティ」「その他スタッフの対応」であった。

一方、「満足していない」という回答が多かったのは、「受動喫煙への配慮」「妊娠中の自分の頑張り」「社会の理解や対応」「産科施設に関する情報」「妊娠から分娩までの継続的な関わり」「参加施設アメニティ」「職場の理解や対応」であった。

妊娠・出産の満足度(項目別)



次のお子さんを産みたいと思いますか。

1. はい 2. どちらかといえば、はい 3. どちらかといえば、いいえ 4. いいえ

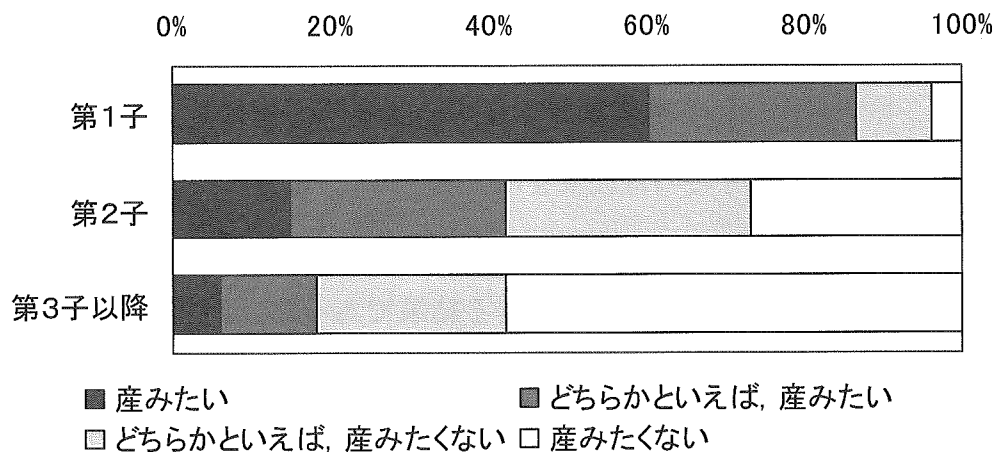
「健やか親子 21」の評価指標ではないが、妊娠・出産や子育ての満足度をはかる総合的な指標として、また、少子化対策の効果を見るうえでも参考になる指標として今回の調査項目に加えたもの。

第1子の母親では次の子（第2子）を「産みたい」と答えたのは60.2%、「どちらかといえば産みたい」を合わせると、86.5%であった。

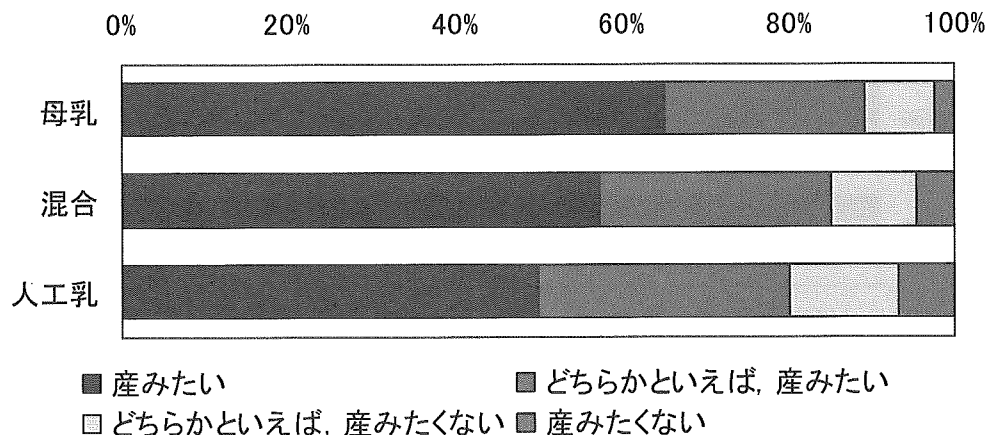
第2子の母親では次の子（第3子）を「産みたい」と答えたのは14.9%で、「どちらかといえば産みたい」を合わせると、42.0%であった。

生後1か月後の栄養方法では、母乳栄養で、第2子の出産意向が強かった。

児の出生順と次の子どもの出産意向



生後1か月の栄養法と第2子の出産意向



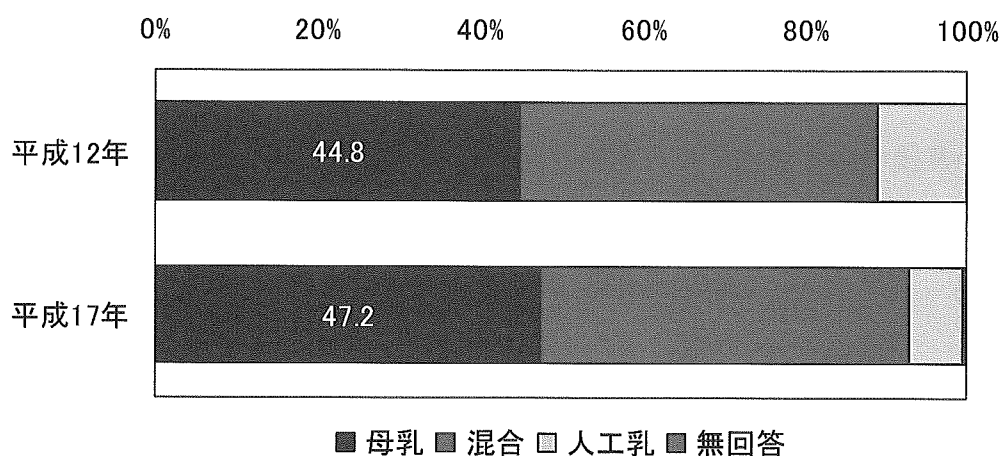
生後1か月時の栄養法はどうでしたか。

1. 母乳 2. 人工乳 3. 混合

育児不安
行動の指標

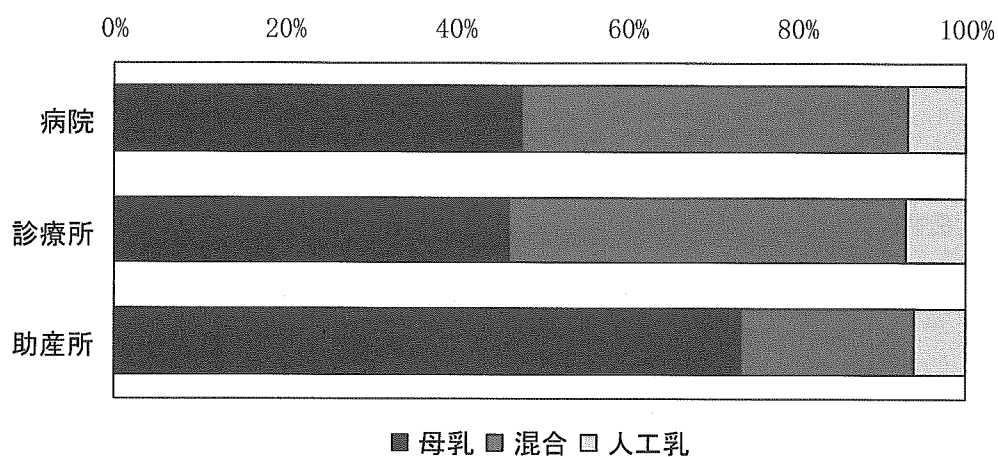
生後1か月時の母乳栄養の割合の平成12年の値である44.8%は生後1か月健診の際に産科医療機関で把握された正確な数値である。一方、今回の47.2%という値は3, 4か月健診時の自記式調査で、生後1か月時の栄養法を尋ねたものであり、精度の点で比較は困難であるため、参考値とされたい。

生後1か月時の栄養法



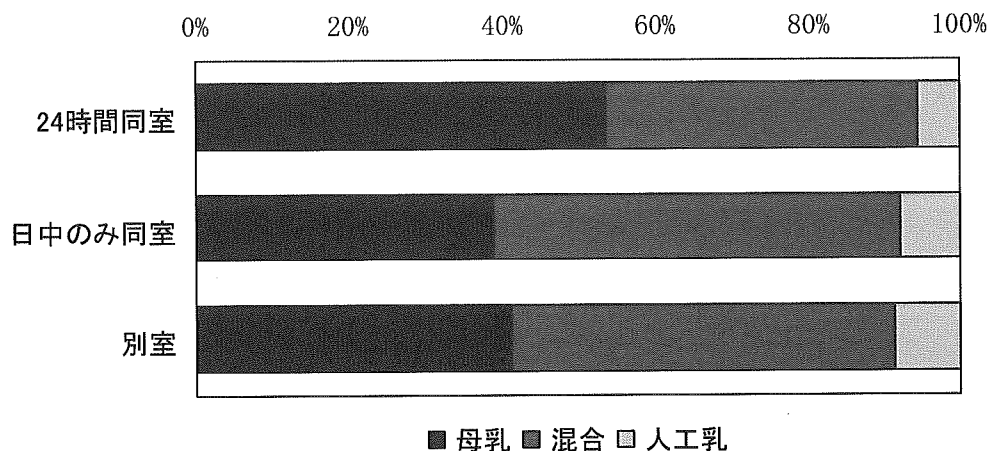
出産場所別の生後1か月時の母乳栄養は、助産所で73.5%であり、病院や診療所での出産と比較して有意に高くなっていた。助産所での乳房管理など母乳育児向けの取り組みが熱心に行われていることを物語る結果であった。

出産場所と生後1か月時の栄養法



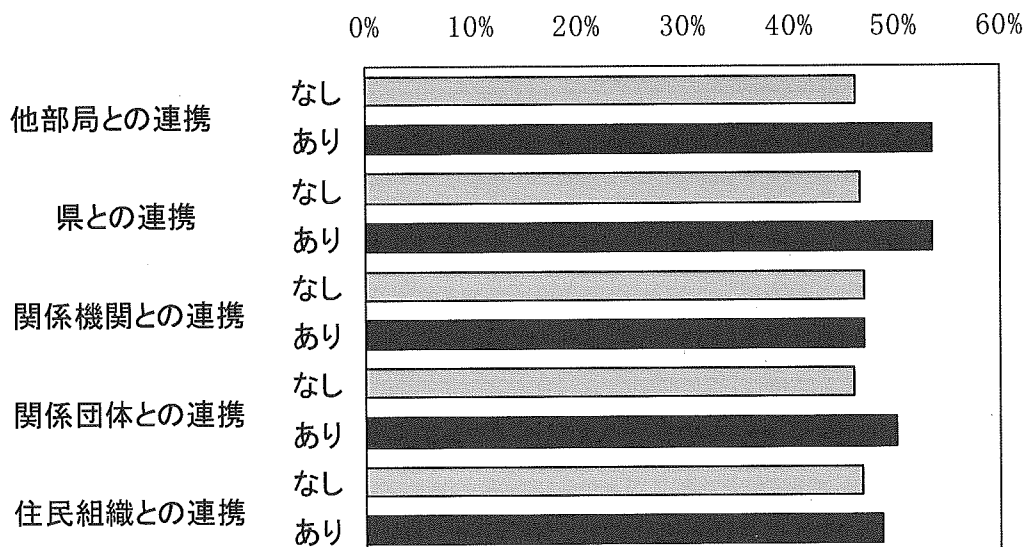
母児同室の状況と生後1か月時点の栄養法の比較では、24時間同室の場合には、53.6%が母乳保育であり、他の2群より有意に多かった。24時間同室であることが、母乳保育を推進する上でも有効と考えられた。

母児同室の有無と生後1か月時点の栄養法



母乳育児の推進に向けて、自治体がどのような取り組みをしているかと、生後1か月時点で母乳育児をしている母親の割合の関連を分析したところ、哺乳しやすい環境づくりに向けて、他部局や県と連携して取り組んでいる自治体の母親は、母乳育児の割合が有意に高くなっていた。

生後1か月の栄養法が母乳の割合



現在の子育ての状況はいかがですか。

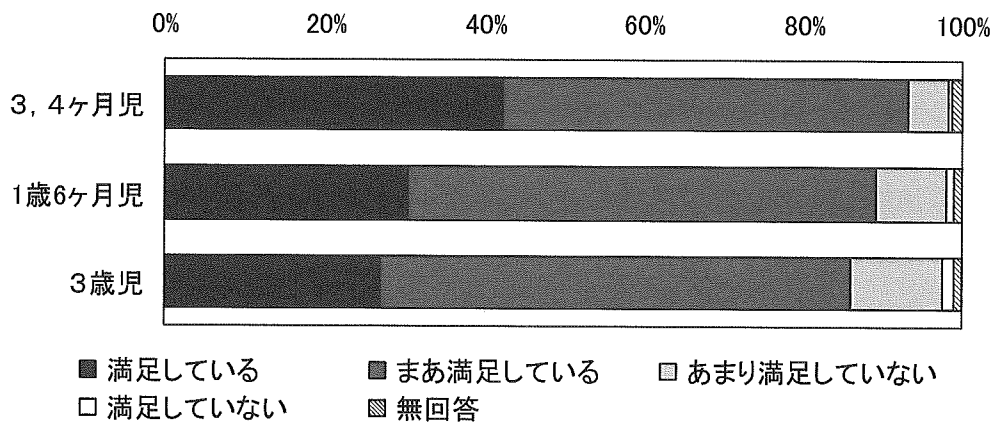
- 1. 満足している
- 2. まあ満足している
- 3. あまり満足していない
- 4. 満足していない

育児不安
QOL指標

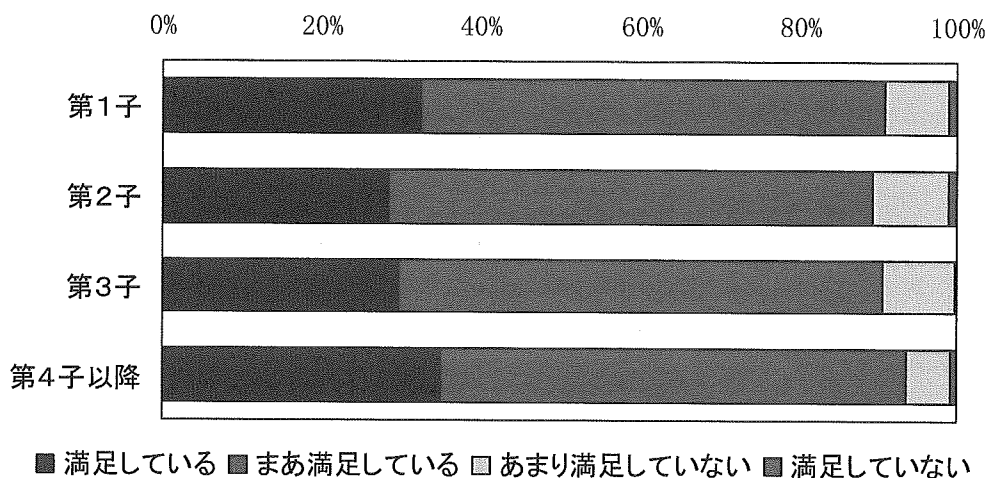
この指標は「健やか親子 21」の評価指標ではなく、ベースライン値もないが、他の育児不安などの指標とともに、母親の子育て状況の評価指標として参考になろう。

現在の子育てに「満足している」と答えた母親は、3, 4か月児で42.4%, 1歳6か月児で30.5%, 3歳児で27.0%と子どもが大きくなるにつれて下がっていた。

子どもの年齢と子育て満足度



出生順と子育て満足度(1歳6か月児の母親)



児の出生順による子育て満足度の差は認められなかった。

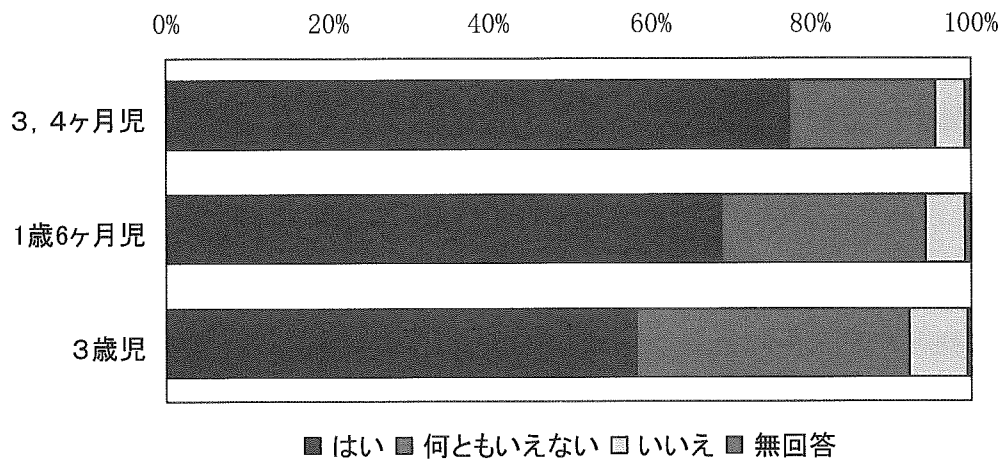
お母さんはゆったりとした気分でお子さんと過ごせる時間
がありますか。

1. はい 2. いいえ 3. 何ともいえない

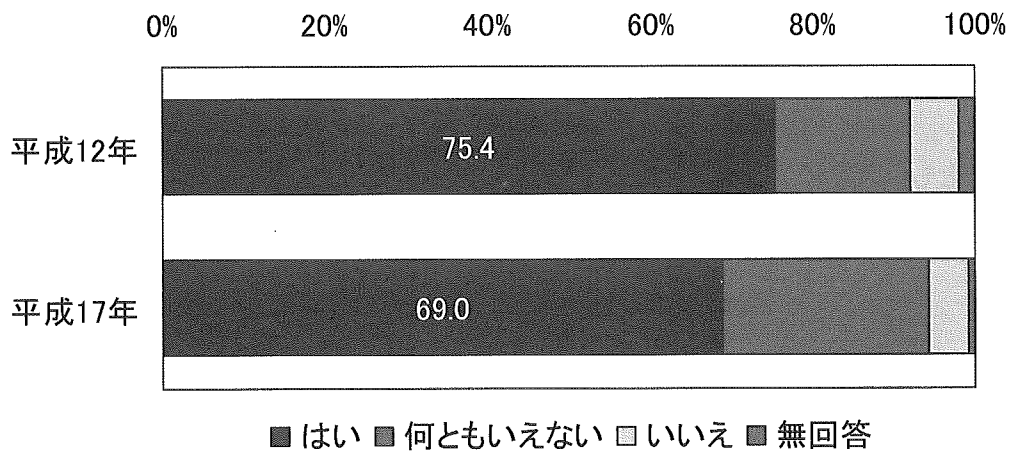
育児不安
QOL指標

ゆったりとした気分で子どもと過ごす時間が「ある」と答えた母親は、3, 4か月児で77.4%, 1歳6か月児で69.0%, 3歳児で58.3%であった。平成12年の値（1歳6か月児で75.4%, 3歳児で63.4%）との比較では、いずれも5ポイントほど低くなっていた。

ゆったりとした気分で子どもと過ごす時間の有無

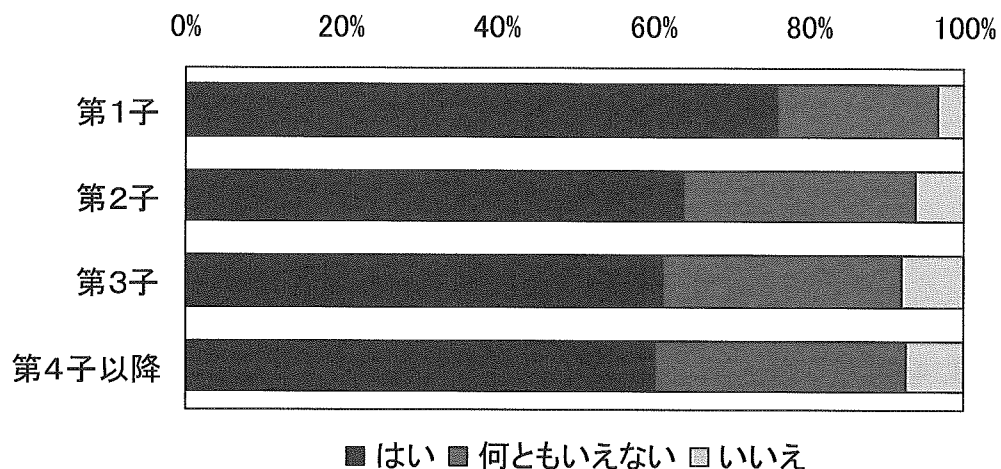


ゆったりとした気分で子どもと過ごす時間がある母親の割合
(3歳児)



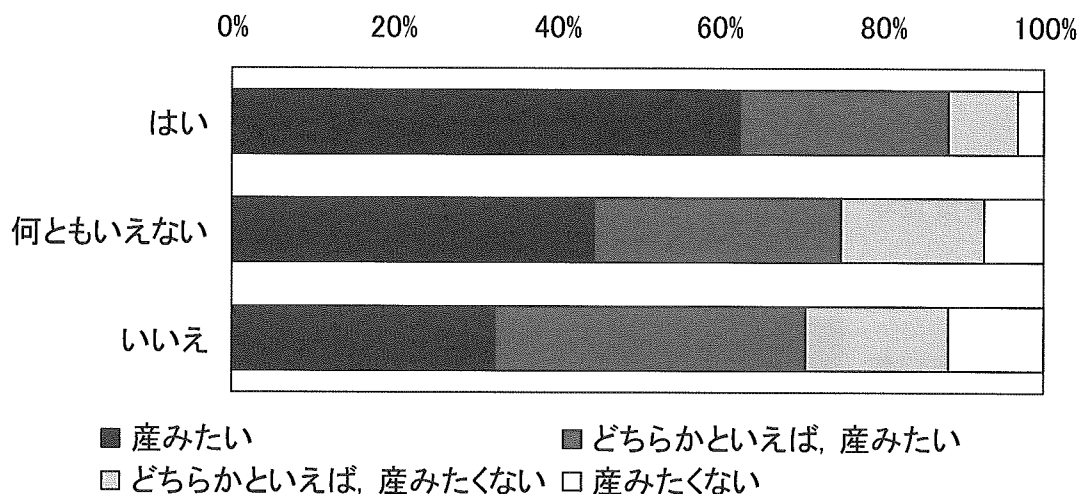
児の出生順で、ゆったりした気分で子どもと過ごせる時間の有無を比較したところ、第2子以降、「はい」と答える母親が減っていた。これは子どもが増えることによる子育て負担の増加が気分的にもゆとりを少なくしていることを示す結果であった。

出生順とゆったりした気分で子どもと過ごせる時間の有無
(1歳6か月児の母親)



第1子の母親について、ゆったりした気分で子どもと過ごす時間の有無により、第2子の妊娠・出産の意向を比較したところ、「はい」と答えた母親で有意に第2子の妊娠・出産の意向が強かった。こうした点からも、ゆったりした気分で子どもと過ごす時間を持てるかどうかは重要な指標と考えられた。

ゆったりした気分で児と過ごす時間の有無と第2子の出産意向



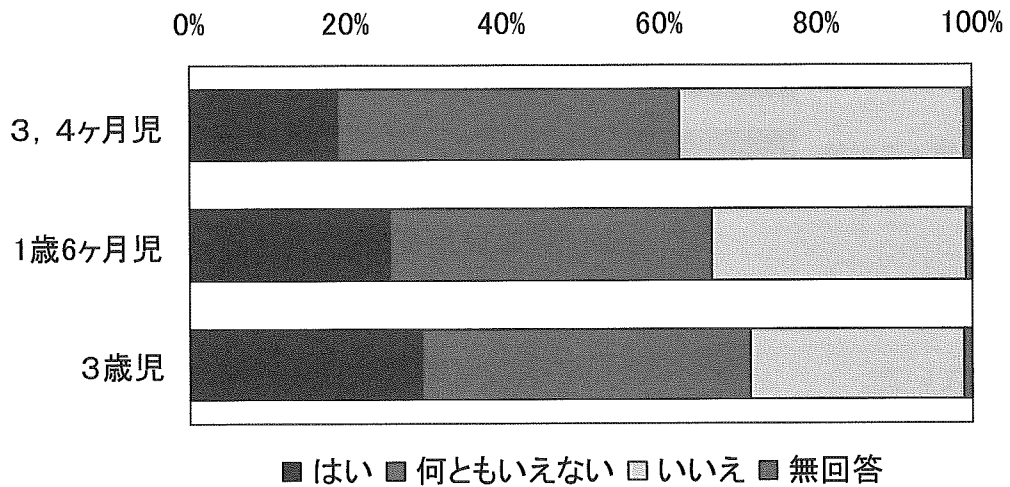
お母さんは育児に自信が持てないことがありますか。

1. はい 2. いいえ 3. 何ともいえない

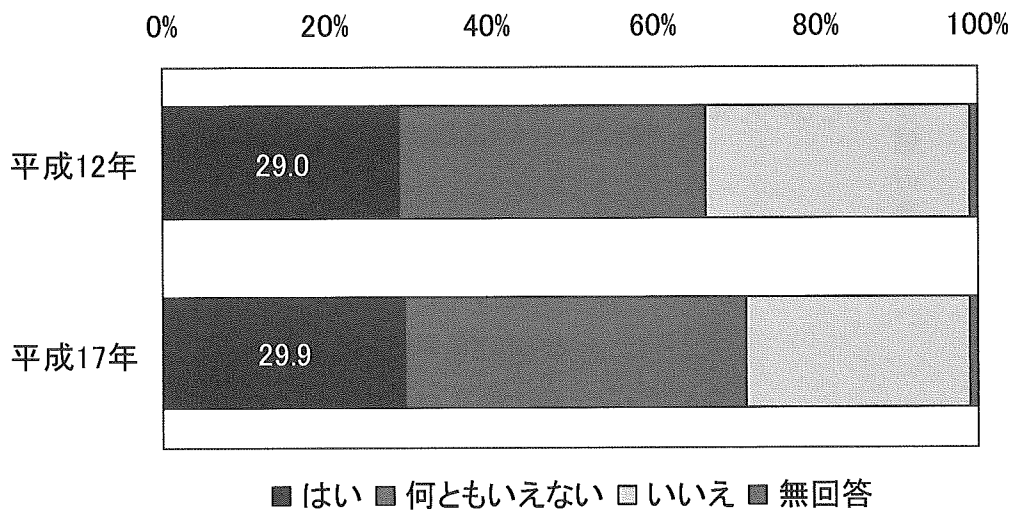
育児不安
QOL指標

育児に自信が持てないことが「ある」と答えた母親は、3, 4か月児で19.0%、1歳6か月児で25.6%、3歳児で29.9%であった。平成12年の値（1歳6か月児で27.7%、3歳児で29.0%）とほぼ同じ値であった。

育児に自信が持てないことがあるか

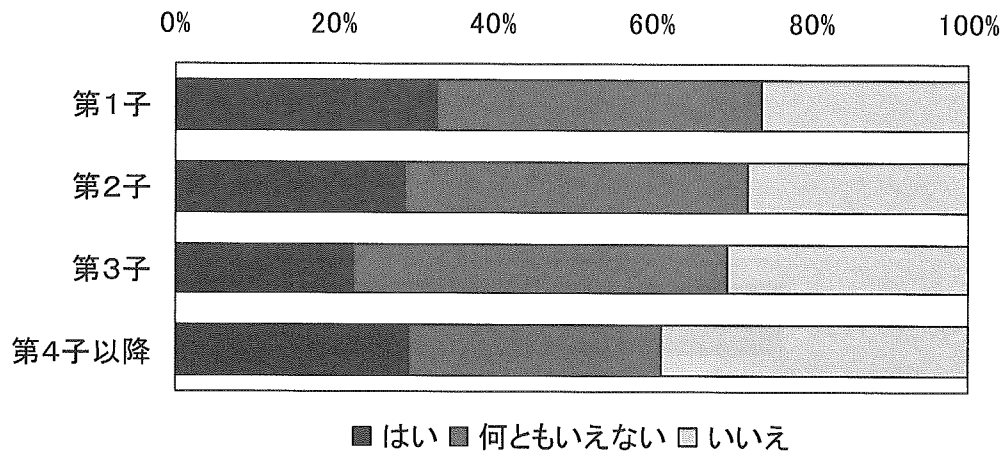


育児に自信が持てないことがあるか(3歳児)



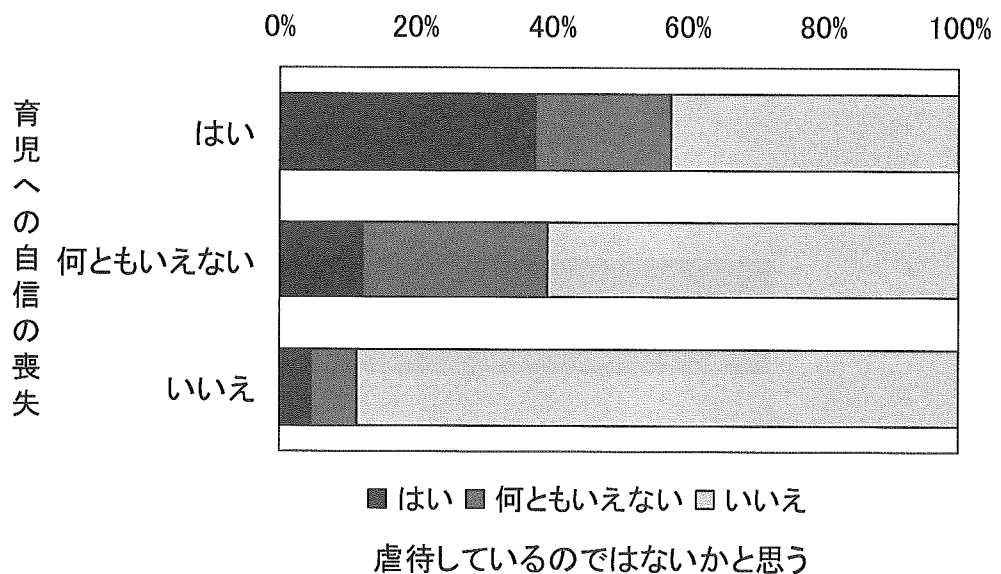
児の出生順と育児に自信を持ってないことがあるかどうかの分析では、第2子、第3子になると、「いいえ」と答える母親が増えていた。子育ての経験に自信をつけていく様子が伺える結果であった。

児の出生順と育児への自信の喪失



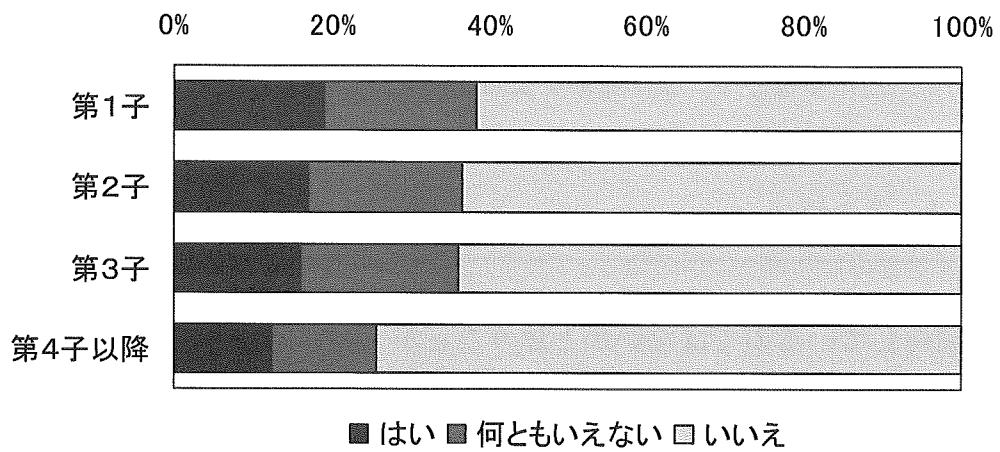
育児に自信を持ってないと答える母親ほど、虐待しているのではないかという自覚を多く持っていた。

育児への自信の喪失と虐待の自覚(3歳児)



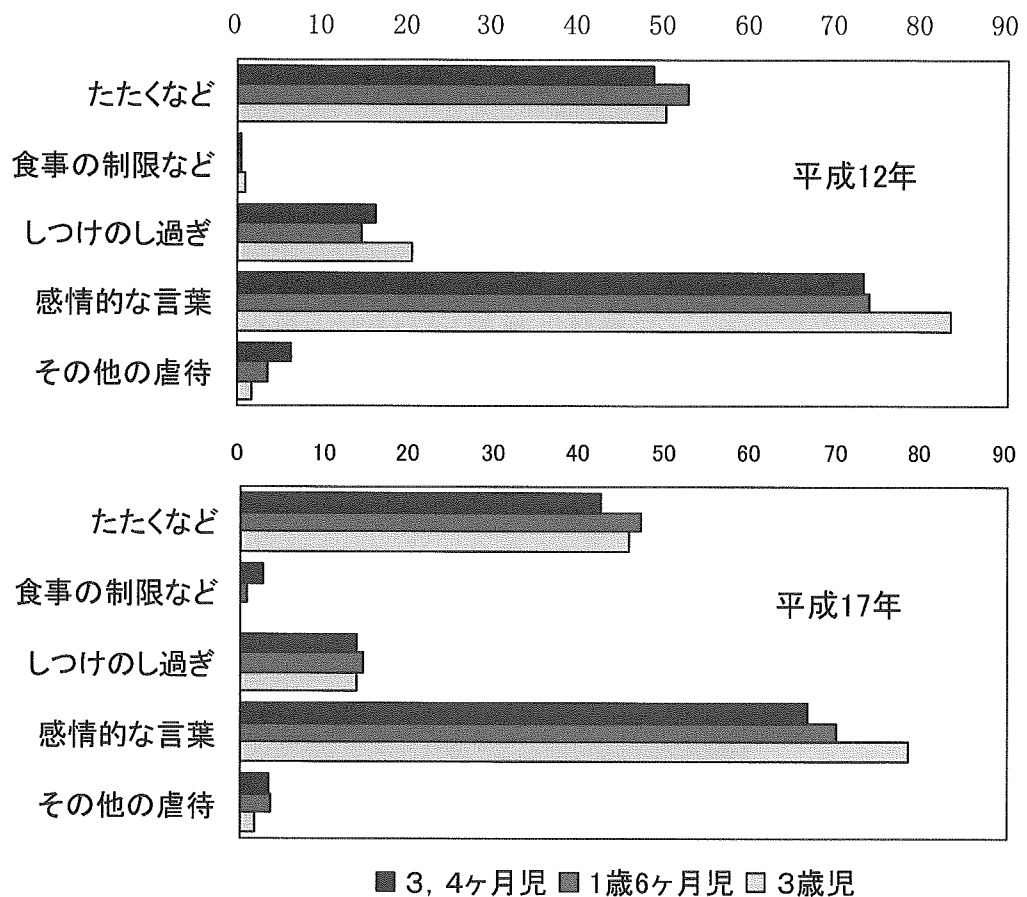
児の出生順で虐待の自覚の有無を比較すると、第1子で最も多く、出生順があとになるほど、虐待の自覚は減っていた。

児の出生順と虐待の自覚(3歳児)



虐待の内容は、どの月齢も感情的な言葉が最も多く、次いで、たたく、しつけのし過ぎであった。平成12年と17年の比較では差異を認めなかった。

虐待の内容



育児不安などの指標間の関連について

ゆったりとした気分で子どもと過ごす時間が「ある」と答えた母親は減り、育児に自信を持ってないことが「ある」と答えた母親はあまり変わらず、虐待しているのではないかと思う母親は減っていた。これらの母親の育児不安の状況を評価する指標の推移が三者三様になったことはこれらの指標の性格の違いを物語るとともに、育児不安の評価の難しさを表している。

下表はそれぞれの指標間の相関を見たものである。「ゆったりとした気分で子どもと接する時間がある」という指標は、子育ての満足と強い相関を示し、父親の育児参加とも相関を認めているが、「育児に自信を持ってない」や「虐待しているのではないか」という項目とは全く相関を認めず、独立した指標であると考えられた。

一方、「育児に自信を持ってない」と「虐待しているのではないか」とは強い相関を示していた。注目すべきことに、「父親が育児をするか」、「父親が子どもと遊ぶか」は、「育児に自信が持てない」、「虐待しているのではないか」のいずれとも相関を認めなかった。このことは、父親の育児参加だけでは母親の育児不安を軽減することが難しいことを示唆しているといえよう。

順位相関係数(3歳児)

	子育ての満足度	妊娠・出産の満足度	ゆったりとした気分	育児への自信喪失	虐待についての自覚	父親の育児	父親が子どもと遊ぶか
子育ての満足度	1	0.291	0.334	-0.101	-0.030	0.176	0.194
妊娠・出産の満足度	0.291	1	0.106	-0.012	0.012	0.090	0.079
ゆったりとした気分	0.334	0.106	1	-0.014	0.012	0.131	0.147
育児への自信喪失	-0.101	-0.012	-0.014	1	0.221	0.011	0.018
虐待についての自覚	-0.030	0.012	0.012	0.221	1	0.013	0.028
父親の育児	0.176	0.090	0.131	0.011	0.013	1	0.710
父親が子どもと遊ぶか	0.194	0.079	0.147	0.018	0.028	0.710	1

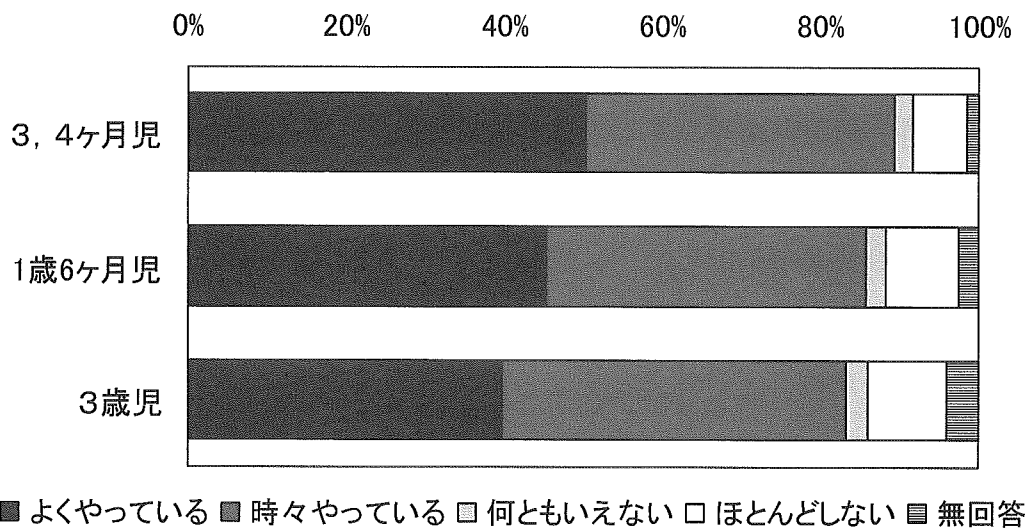
お父さんは育児をしていますか。

- 1. よくやっている
- 2. 時々やっている
- 3. ほとんどしない
- 4. 何ともいえない

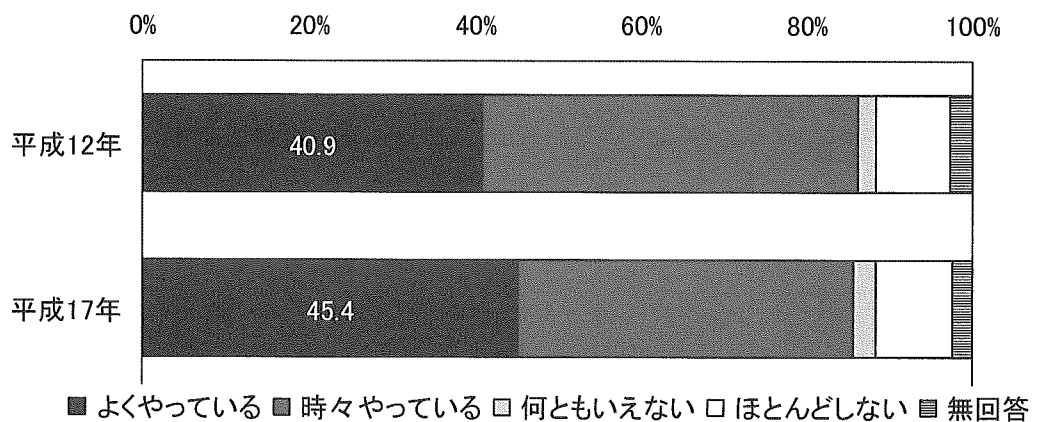
育児不安
行動の指標

父親が育児を「よくやっている」と答えた母親は、3, 4か月児で50.3%, 1歳6か月児で45.4%, 3歳児で39.8%であった。平成12年の値(1歳6か月児で40.9%, 3歳児で35.5%)との比較では、いずれも4.5ポイント程度改善していた。

父親の育児状況

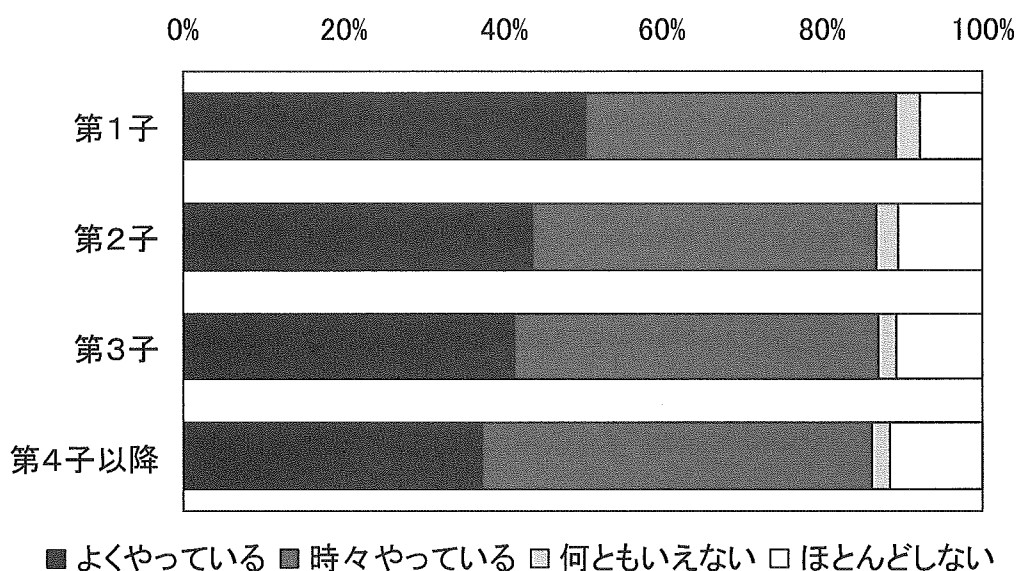


父親の育児状況の推移(1歳6か月)

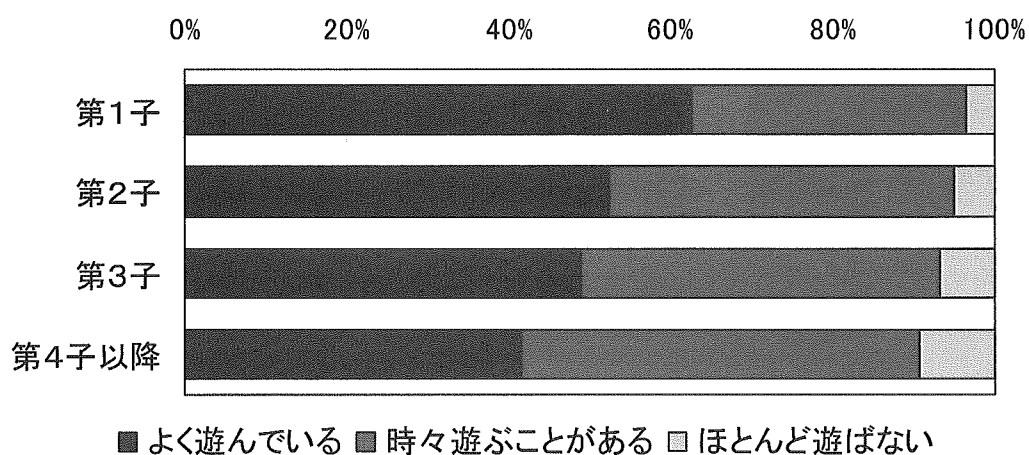


児の出生順による父親の育児参加の比較では、第1子では「よくやっている」父親が多いが、出生順があとになるほど、「よくやっている」父親が減っていた。同様に、子どもと「よく遊ぶ」父親も出生順があとになるほど、減っていた。

児の出生順と父親の育児(1歳6か月)



児の出生順と父親の子どもとの遊び(1歳6か月)



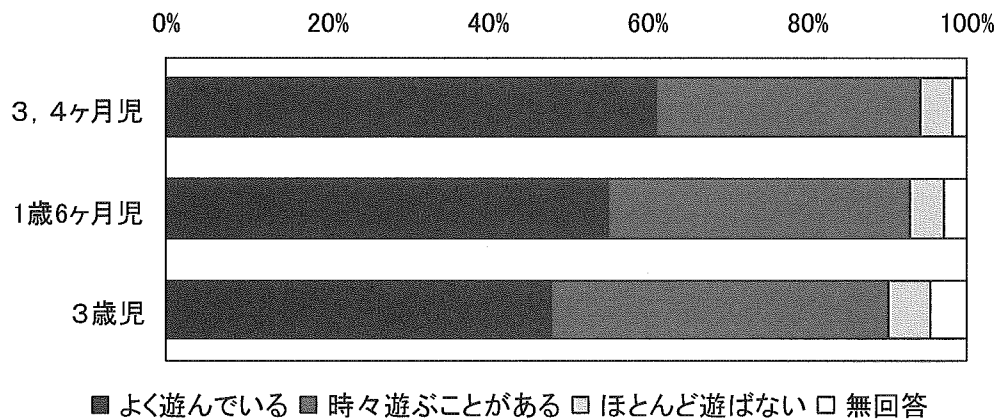
お父さんはお子さんとよく遊んでいますか。

1. よく遊んでいる
2. 時々遊ぶことがある
3. ほとんど遊ばない

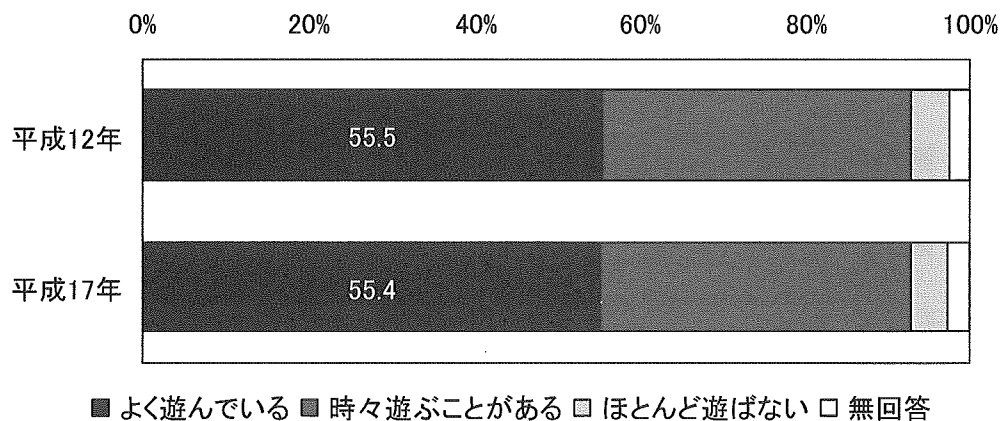
育児不安
行動の指標

父親が子どもと「よく遊んでいる」と答えた母親は、3, 4か月児で61.2%, 1歳6か月児で55.4%, 3歳児で48.1%であった。平成12年の値(1歳6か月児で55.5%, 3歳児で47.8%)とほぼ同じであった。

父親が子どもと遊ぶか



子どもと遊ぶ父親の割合の推移(1歳6か月)

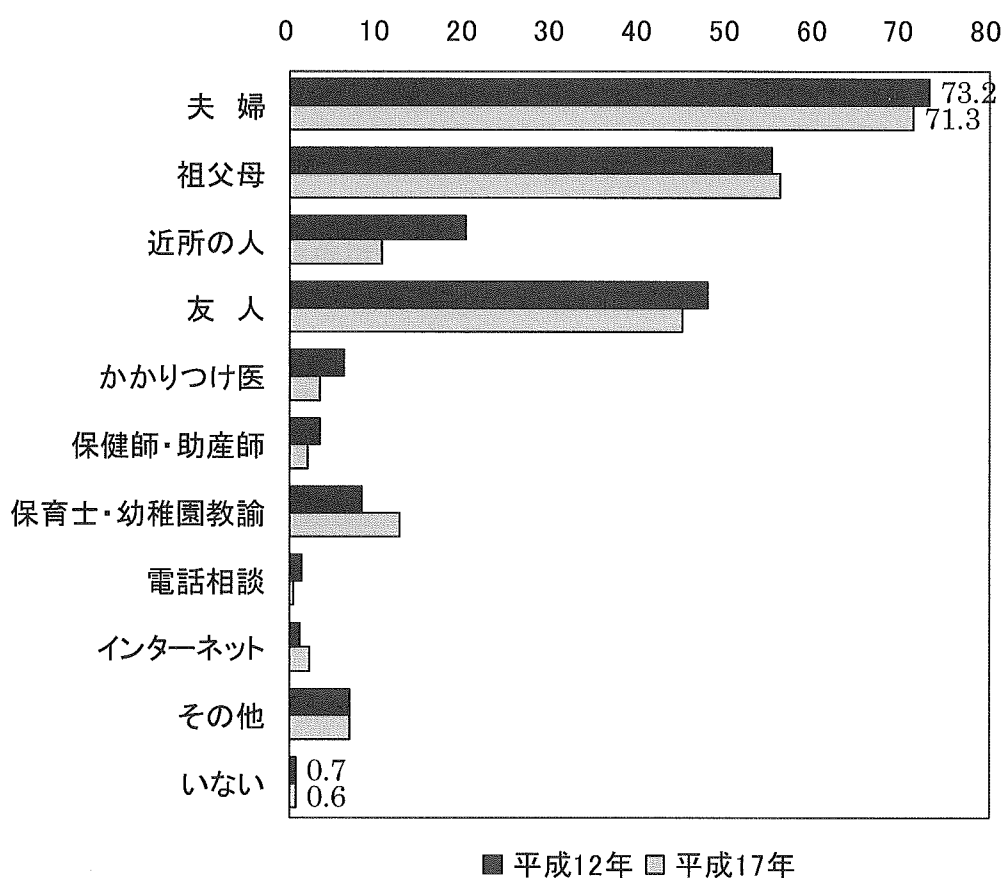


相談相手の平成12年と17年の比較では、保育士・幼稚園教諭は1歳6か月で12.6%、3歳児で18.3%と平成12年の値（1歳6か月で8.1%、3歳児で14.4%）より、4ポイントほど多くなっていた。

近所の方は平成12年では約20%であったが、今回の調査では約10%と半減していた。5年間の間のこの変化は携帯メールの普及など母親のコミュニケーション方法の変化が影響しているのではないかと考えられる。

相談相手がないと答えた母親は、平成12年の値と同様に1%未満であった。

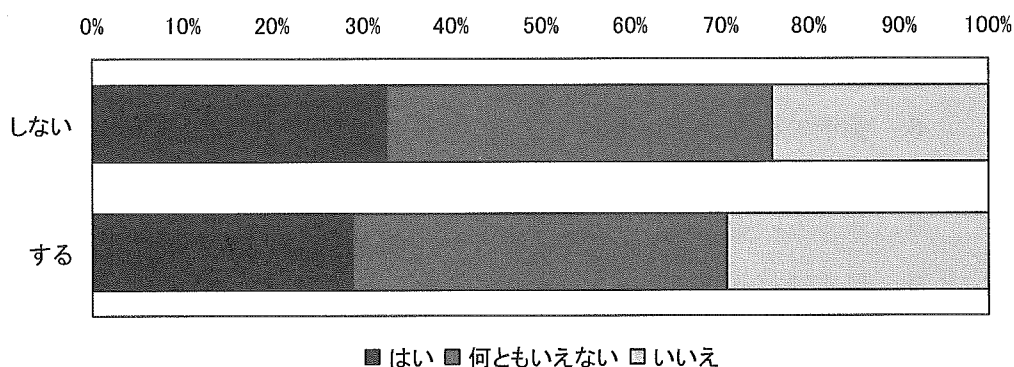
日常の育児の相談相手の変化(1歳6か月)



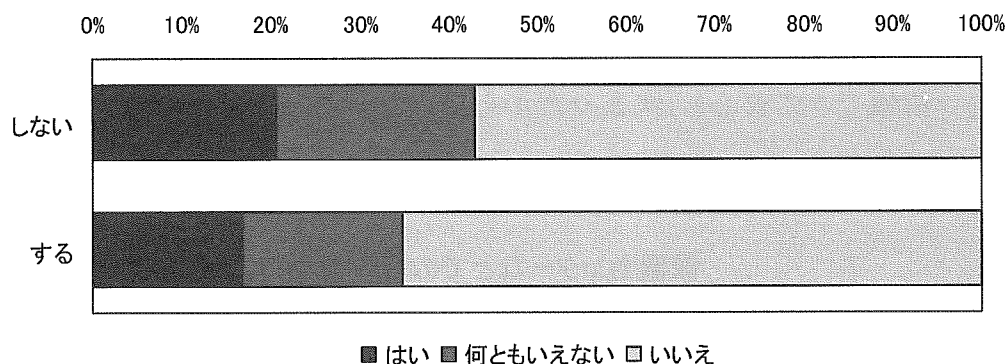
相談相手の育児不安の指標との関連

父親と相談している母親では、「育児に自信を持ってない」者や「虐待しているのではないかと思う」者が少なかった。

夫への相談の有無と育児への自信の喪失(3歳児)

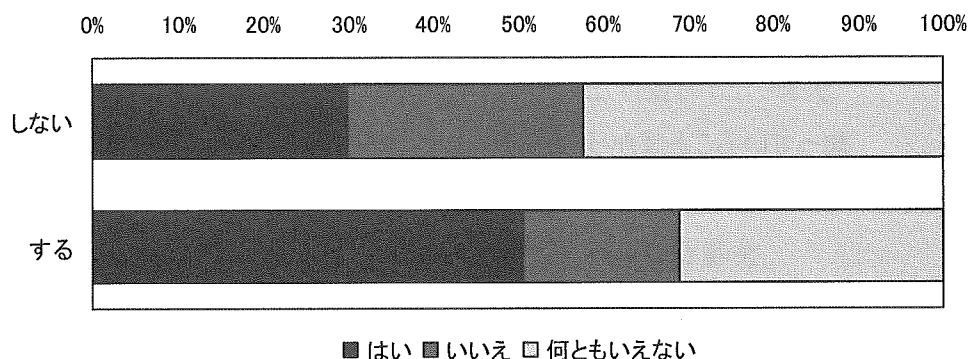


夫への相談の有無と虐待の自覚(3歳児)



一方、保健師に相談をすると回答した母親では、「育児に自信を持ってない」と答える母親が多く、こうした不安を持つ母親が保健師に相談していると考えられた。

保健師への相談の有無と育児への自信の喪失(3歳児)



健診を受けた感想はいかがですか。

(あてはまるもの全て○をつけてください)

1. 信頼がおけて安心できた
2. 医師や保健師の話が勉強になった
3. 栄養士の話がためになった
4. 心理士の相談がためになった
5. もっとゆっくりした時間が欲しかった
6. 個別の相談がしたかった
7. 決まりだから受けた
8. 知っていることばかり教えられた
9. 形式的だった
10. 友達ができて良かった
11. その他 ()

保健センターなどで健診を受けた児の母親の感想として多かったのは、「勉強になった」「信頼できて安心」「決まりだから受けた」「形式的だった」「栄養士の話が良かった」の順であった。

保健センターなどでの健診を受けた感想

